

編 集 後 記

長い暑さに倦み、そろそろ涼しい季節が懐かしく思われる時候である。まもなく秋の学会シーズンが到来するので、それぞれ心せわしくな
って来る頃でもあろう。

おかげ様をもって、この雑誌は皆さまの厚い御協力のおかげで毎号特
徴のある内容を揃えて発行することが出来ている。尚いろいろ御不満の
点も多いことと思うので、どうぞ心付いた点は御遠慮なく御申し越しい
ただきたいものと思う。

本号では、医原性疾患が特集された。此の問題は医者と言動、行動、
医療行為にもとづく多くの原因が患者に対してひきおこす様々の反応が
含まれるので、その解釈、定義、取り扱いについては人により随分と異
なるものである。このような難かしい問題に対して本号の3篇の内外科
両域にわたる総説と、白壁氏の司会による座談会は何らかの解決を与え
るものであると思う。またこのような考え方は今日われわれが日常患者
に接する場合忘れてはならないものと思う。

その他海藤教授の血清肝炎の展望を収め得たことは大変喜ばしいこ
とで、今日外科手術も出来るだけ輸血をせずにすませようという考えの
もとには血清肝炎が中心問題となっている。今日最も関心をもたなけれ
ばならない問題の一つである。

今号もまた多くの貴重な症例、X線検査のコツが収録されており、こ
れも読者に大いに役立つものと期待している。

< 城 所 仵 >

< 編集 > 早期胃癌研究会